



しまね脱炭素

チャレンジ集

～学生編 5～



はじめに

島根県は「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ」を長期的な目標に掲げ、環境に配慮した持続可能な地域づくりなど地域版SDGsの実現に向けた取組を進めています。

そこで、さらなる取組を後押しするため、島根県地球温暖化防止活動推進員が中心となって、次世代

を担う県内の児童・生徒・学生が取り組んでいる地域活動を脱炭素の観点で取材し「脱炭素チャレンジ集」として取りまとめました。

この事例集をきっかけに、地球を守る地域活動に興味・関心を持っていただき、地域における脱炭素の芽を育てていくことができれば幸いです。

目次

- 2 はじめに
- 3 **事例01** 木に触って、木を作り、樹と遊ぶ、
「木育」その一つが「ロボ木ー」なんだよ
島根大学教育学部附属幼稚園
- 4 **事例02** エコクルーズ、水質調査、
省エネチャレンジシートで身近な環境を学んだよ！
松江市立鹿島東小学校
- 5 **事例03** ぼくたちわたしたち『苧藻谷川探検隊！』
出雲市立朝陽小学校
- 6 **事例04** チャレンジ「伊野いち」
出雲市立伊野小学校
- 7 **事例05** ふるさとの川調査隊
出雲市立塩冶小学校
- 8 **事例06** 「都茂じまん」づくり
益田市立都茂小学校
- 9 **事例07** 木次中学校生徒の地域ボランティア活動参加
雲南市立木次中学校
- 10 **事例08** 守り続けた稲作活動を小学生と共有し新たな一歩へ
浜田市立第四中学校
- 11 **事例09** 「美都中学校地域ボランティア活動」
～故郷は清掃やふれあいを通して輝く～
益田市立美都中学校
- 12 **事例10** 飯南町の木を利用して思い出をつくろう！
島根県立飯南高等学校
- 13 **事例11** 隠岐の島が一つの地球
島根県立隠岐水産高等学校
- 14 SDGs 解説
- 15 島根県地球温暖化防止活動推進員とは
- 15 記者紹介

事例

NO. 01

木に触って、木を作り、樹と遊ぶ、「木育」その一つが「ロボ木ー」なんだよ

島根大学教育学部附属幼稚園

園庭の
ツリーハウス活動
内容

「木育」の第一人者、山下晃功島大名誉教授指導の下、木のぬくもり、木の音、木の手触り、木の香りなどから感性を培い、様々なアクティビティによるもの作りを通して、環境問題に意識を向ける木育教育を実践しているのが本園です。ヒノキ製積み木や、様々な木製のおもちゃに触れられる「木音（もね）の部屋」。園庭には、エノキの大木のツリーハウスがあり、木登りをしたり、壁の型抜きから顔をだしたりと、楽しみながら木に触れています。園児自ら給食で使うヒノキの箸作りに挑戦。カンナを使って製作した箸で食べると食への意欲も変わります。同じヒノキでできた木製ロボット「ロボ木ー」づくり



木音の部屋

も楽しみます。木槌を使ってヒノキのパーツを組立て、ビーズや毛糸で飾ってオリジナル「ロボ木ー」の完成です。園児達は、さっそく愛着を持ってごっこ遊

びに夢中です。

check
活動
ポイント

樹木は森で光合成によってCO₂を吸収し、木の中に炭素を固定して年輪を重ね木材として利用されます。「ロボ木ー」は鼻と口がありません。もし鼻と口があれば人間の様に呼吸して大気中にCO₂を排出してしまうかも。だからCO₂を閉じ込めてくれる「ロボ木ー」は地球温暖化防止のヒーローなんです。幼児期から木育を通して地球環境を学べる機会があるのは素晴らしいですね。

(取材 石原(松江市))



ロボ木ー

活動団体 DATA

活動団体名: 島根大学教育学部附属幼稚園

住所: 島根県松江市大輪町 416-4 0852-29-1120

URL: <https://www.shimane-fuzoku.ed.jp/fuyo/>

事例

NO.02

エコクルーズ、水質調査、省エネチャレンジシートで身近な環境を学んだよ!

松江市立鹿島東小学校



エコクルーズの学び

録湿地の宍道湖の生態系や環境について学びました。その宍道湖に流れ込む佐陀川の支流で、学校の前を流れる講武川、学校から歩いて1時間ほど上流の石井川では水質調査を行いました。環境保健公社の方からバックテストや指標生物観察の方法を聞き、川の中に入って水生生物の種類と数を調査しました。講武川はカワニナ、アメリカザリガニもいて「ややきれいの評価」、上流の石井川にはヨコエビが多く「きれいの評価」でした。その他にも、夏休みには、まつえ環境市民会議制作の「省エネチャレンジシート」に挑戦し、身近にできるCO₂削減への取組をすることで、環境を

活動内容

4年生14人は、環境に関する様々な学習を行っています。エコクルーズでは、宍道湖遊覧船はくちょう号に乗って、ガイドさんからシジミ漁や、ラムサール条約登

守るために自分たちができることが沢山あることに気づきました。

生物調査



check 活動ポイント

「省エネチャレンジシート」では「取り組み優秀校」に選ばれました。チャレンジをきっかけに、ちょっとした省エネの取組を家族にも呼びかけています。児童の身近にある講武川・石井川の水質調査や、エコクルーズで学んだシジミによる浄化実験などから、この環境を守っているのは「私たち自身だ」という児童の意識に繋がっていると思いました。(取材 石原(松江市))



生き物探し

活動団体 DATA

活動団体名: 松江市立鹿島東小学校

住所: 島根県松江市鹿島町北講武 599 0852-82-0309

URL: <http://www.city.matsue.ed.jp/k-higashi-e/>

事例

NO. 03

ぼくたちわたしたち『苧藻谷川探検隊！』

出雲市立朝陽小学校



地域の方から話を
聞いている様子

活動 内容

4年生 34人は、校区内を流れている苧藻谷川の上流、中流、下流の3地点で、透明度、水質、生き物の3項目を調査しました。また、河口のゴミの状況も調べました。調査では、川に詳しく



中流での水質、生き物調査の様子

大切に思っている地元の方々にも話を聞きました。

トビケラがいた上流は、透明度が高く水が澄み、水中の生き物が見えます。中流でサワガニを見つけたものの、下流に行くほど川が濁り、生き物の姿をほとんど見る事ができません。河口には、ゴミが多く残念に思いました。

『今後は、学んだことを生かして、以前のように生き物が棲むきれいな川にして、生き物を助けたい』と、力強く発言している児童たち。苧藻谷川の探検活動から、自分たちの生活が環境に与える影響や地球環境について強い関心を持ち、意欲的に取り組んでいます。

check 活動 ポイント

児童は、生活様式と水質や生態系の変化との関連性、人々の環境保全への意識と川の汚れやゴミとの関係について、学習を深めてきました。身近な川を調べ考えることは、地域にとどまらず地球の未来を考えることにつながることに気づいています。



見つけた生き物

学習発表会等を通して、学んだことを保護者や地域住民に伝えることは、環境への意識を高めるメッセージとして、持続可能な社会づくりの基盤となり地域の財産となると思います。(取材 柳楽(出雲市))

活動団体 DATA

活動団体名: 出雲市立朝陽小学校

住所: 島根県出雲市園町 64-2 0853-63-2615

URL: <https://www.izumo.ed.jp/asahi-sho/>

ブログ: <https://blog.izumo.ed.jp/asahi-sho/>

事例

NO. 04

チャレンジ「伊野いち」

出雲市立伊野小学校



伊野でとれました

活動内容

6年生12名は、総合学習「地域の活動との関わり」の学習の一環として、春・秋に伊野コミュニティセンター前広場で開催される産直市「伊野いち」に参加しています。自分達が育てた、春はジャガイモ、秋はさつま芋や焼き芋を販売します。「自分達が作った作物を地域の方や遠くから参加してくださる人に直接販売することはとても嬉しい」と、目を輝かせています。

「伊野いち」への出店と、おもてなしコーナーで、参加の人々に伊野地域で収穫した新米おにぎり、シジミ汁、漬物を提供することを通して、地域の人と関わることの温かさ、大切さを学び、地域への愛着を強くしています。

「地域の皆さんと交流して豊かな伊野にしたい」と、瞳を輝かせて発言している児童たち。伊野地域の人々に支えられて活動しながら地球の未

来、地球環境について強い関心を持って意欲的に取り組んでいます。

「豊かな自然に囲まれた伊野地域で取れた作物は美味しい」「地産地消することは、車で運送しないので輸送費が不要」「CO₂も出ないので地球にとって優しい活動をしている」と、誇らしく発言する子どもたち。

「伊野いち」に参加することで、作物を育て、育てた作物を自分達で食べることの喜び、そして、食材を作る人と使う人との出会いの大切さを学びました。地域の人々とのつながりから学ぶ喜びを感得する心は、持続可能な地域づくりの基盤となり地域の財産になると思います。(取材 柳樂(出雲市))



お客様との交流



伊野いち

活動団体 DATA

活動団体名: 出雲市立伊野小学校
 住所: 島根県出雲市野郷町 459-2 0853-69-1525
 URL: <https://www.izumo.ed.jp/ino-sho/>

事例

NO. 05

ふるさとの川調査隊

出雲市立塩冶小学校



活動内容

校区内にある神戸川本流の、2008(平成20)年の水質調査状況を図書館で見た児童が、今はどうなっているのか疑問をもったことから、4年生の総合的な学習の時間の中で、現在の水質について調査をすることになりました。事前に指標生物の形や特徴を調べ、現地で生きものを分類するなど積極的に取組み、夢中で魚や昆虫を探しました。調査から、生き物が多く生息する豊かな川であることがわかりました。

調査している中で、ペットボトル、ゴミなどが多く捨てられていることに驚き、ゴミ回収等も行いました。水は思っていたほど汚れてはおらずきれいな川でした。



神戸川調査

観察を終え、川の環境や上流の状況を踏まえて、地域の環境や、川を守るために自分たちにできることを考えて行きたいと元気に語っていました。

校内では、調

査をまとめ「2023斐伊川・神戸川流域環境マップづくり成果発表会」を行いました。



ゴミ拾い

check 活動ポイント

川では、ゴミやペットボトルなど沢山のゴミがあり、それを拾いながらの調査となりました。どのようにしたらふるさとの川からゴミをなくすことができるのか、みんなと話し合い、保護者の皆さんにも協力していただき、川を守るための活動を行います。今の神戸



成果発表会

川が、さらにきれいな川になるよう、私たち一人ひとりがこれからも継続して川の環境を守り「豊かなくらし」「豊かな未来」を築くことが必要ではないかと思ひます。

(取材 高橋(出雲市))

活動団体 DATA

活動団体名: 出雲市立塩冶小学校

住所: 島根県出雲市塩冶町 677 0853-21-0952

URL: <https://blog.izumo.ed.jp/enya-sho/>

事例

NO.06

「都茂じまん」づくり

益田市立都茂小学校



線に沿って植えるんだよ

活動内容

平成15年、地域で安全安心な米作り「合鴨農法」に取り組む(農)ゆいの里美都が立ち上がり、この頃から本校でも5・6年生が、法人や、地域の方に指導いただき米作りに取り組んでいます。

2aの水田で、堆肥まきから始まり・田おこし・代掻き・田植え、肥料まきと一から学びます。途中からは合鴨3羽が参加します。この地域には約400羽がおり、児童にとっては見たことのある風景ですが、合鴨を鳥獣から守るための電柵作り、餌やり、小屋入れなどは初めての体験です。作業を忘れないよう2人1組の当番制で行いました。一人ひとりの協力があっての収穫で、その作業は楽しく、そして大切なことだと知りました。収穫したお米は約60Kg。指導などお世話になった方などに食べてもらおうと、5・6年生が中心に訪問し、お礼とともに手渡しました。



あったかいね、これからよろしくね

試食会も行い11月の学習発表会で発表しました。



本校の「安心・安全な米作り」はできるだけエネルギーを使わない・農薬や化学肥料を使用しない、合鴨の食べる力を利用した画期的な取組です。環境に負荷をかけない取組であるとともに、地域の方々のご指導は、将来の子どもたちの生きる力に癒しと学びを与え、感謝の心・食の大切さを伝えていくためにはなくてはならない活動だと思います。



なんとか全部束ねられたね

(取材 小川(益田市))

活動団体 DATA

活動団体名: 益田市立都茂小学校

住所: 島根県益田市美都町都茂 1887-1 0856-52-2547

URL: <https://blog.goo.ne.jp/tumoshosho30>

事例

NO. 07

木次中学校生徒の地域ボランティア活動参加

雲南市立木次中学校



活動内容

木次中学校では、祭りや地域イベント、見守りボランティアなどの奉仕活動、子ども教室等の手伝いに中学生が参加することで学びの機会を得る体験活動を行っています。



見守りボランティアをする中学生

今年度は、ボランティア活動に参加した中学生と地域住民の方お互いの思いに理解を深める意見交換会を開催しました。生徒達は「ボランティア活動を通じて、地域の人達との幅広いふれあいが得られただけでなく、相手に喜んでもらえ達成感を得ることができた」「この経験をもとに自分達のできることは何かを考え、地域への恩返し、地域貢献につなげたい」「やらされ感ではなく、人の心が豊かになるボランティア



地域行事のスタッフをする中学生

文化となってほしい」と地域と学校の未来につながる思いを述べていました。



意見交換会の様子

✓check
活動ポイント

持続可能な地域づくりに必要な、多世代との対話に取り組んでいます。生徒達は環境の情報について意識しています。最近、再生可能エネルギーの活用が進む一方で、森林破壊が深刻化し、ソーラーパネル処理問題が発生しています。世界では食糧不足の地域がある一方、食品ロスが問題になっています。

生徒達は「自分達は環境問題に対して何ができるのか、行動に移す方法を知りたい」と話しています。

(取材 安部(雲南市))

活動団体 DATA

活動団体名: 雲南市立木次中学校

住所: 島根県雲南市木次町新市 421 0854-42-1411

URL: <https://shimane-school.net/unnan/kisuki-chu/>



事例
NO. 08

守り続けた稲作活動を小学生と共有し新たな一歩へ

浜田市立第四中学校



活動内容

令和5年度末に閉校となる浜田四中では、これまで美川小や地域の方とも協力して米作りを行ってきました。4aの田んぼで、最近の3年間は「きぬむすめ」を栽培しています。

今年度は、1年生が、すでに統合される第三中学校に通っているため、2・3年生の5人がリーダーです。

昨年は、150Kgの収穫がありました。例年、11月3日に行われる文化祭でお米や野菜を販売し、翌年の費用に充てていましたが、今年は、今までの感謝の気持ちを込めて地域の皆さんにお配りすることにしました。

地域の方には、自身が浜田四中生だった時に作った味を思い出しながら、今年のお米を大切に食べてほしい、また、小学生には、地域の方に教えてもらった田植えや稲刈り、脱穀した体験を記憶



小中学生、地域の人で田植え

し、引き継いでいってほしいと願いつつ、浜田四中最後のしめ縄づくりに取り組んでいます。

配ったお米



check 活動ポイント

「農業や肥料を最小限に控え、天日干しの藁は地域の人たちに利用してもらう」。機械化すれば簡単な作業にあえて時間をかけ、地域の人たちとコミュニ



小中学生、地域の人で協力して稲刈り

ケーションを楽しんでいます。浜田四中生が残した灯(功績)は、途絶えることなく地域の人たちの心の中でもり続け、脱炭素につながるとともに持続可能な地域づくりの財産となっていくことと思います。

(取材 大橋(浜田市)2023年10月)

活動団体 DATA

活動団体名: 浜田市立第四中学校

住所: 島根県浜田市内田町 1050 番地 0855-27-0813

URL: <https://www.city.hamada.shimane.jp/www/dai4-j/>

事例

NO. 09

「美都中学校地域ボランティア活動」～故郷は清掃やふれあいを通して輝く～

益田市立美都中学校



活動内容

全校22名の小さな学校の生徒全員が、地域ボランティア活動に取り組んでいます。

美都中の校区は旧美都町内と広く、各地から生徒が通ってきているため、活動

は下校時に行っています。取組は公民館、バス停、駐輪場、お宮、ふれあいホールと周辺など普段お世話になっている施設を中心



遊び

に、缶拾い、草刈り・草取り、雑巾がけなどで、人目につかない場所までもカバーしています。学年別では、3年生は高齢者サロンでの食事づくりや遊びを通しての触れ合い、2年生は小学生に勉



お宮での活動

強を教える「通学学習」、1年生は保育所での清掃や園児とのレクリエーションを行っています。

さらに全体活動では、種から苗づくりをした花を育てています。花が咲いたら鉢に植え替え、3月に地域の事業者に配り楽しんでいただいています。

check 活動ポイント

地域の清掃はゴミ拾いからはじまります。清掃の活動は一人ひとりの「ちばら」（地域応援ボランティア）という名称そのものです。活動を通じた触れ合いは、高齢者にとっては、生きる力となるでしょう。また、多くのあとを追いかける後輩や保育園の園児に引き継がれるでしょう。持続可能な社会の担い手としての心は健やかに育っています。（取材 藤井(益田市)）



食事づくり

活動団体 DATA

活動団体名: 益田市立美都中学校

住所: 島根県益田市美都町都茂 1947 0856-52-2525

URL: <https://mito-jh.edumap.jp/>

事例

NO. 10

飯南町の木を利用して思い出をつくらう！

島根県立飯南高等学校



活動内容

3年生の3名のグループは、生命地域学の課題研究として飯南町での木材の活用について学んでおり、その一環で地元の製材工場を見学しました。

製材の際に出る廃材が全てチップとして利用されていると知り、生徒達は「全部チップにするのはもったいない、廃材を利用して、町民の方々に飯南町で生きる喜びや、楽しい思い出になるものを作ろう」と考えました。飯南町だからこその暮らしを彷彿とさせるもの、幼稚園児には木で作ったおもちゃ、高齢者へはベンチを製作し、プレゼントすることを計画しました。



地元の製材工場

3名の生徒達は、バックグラウンドも暮らし方もそれぞれで、必ずしも山や木材についての理解があるわけではありましたが、学習の一環で体験した森林セラピー等

も通して飯南町の豊かな自然、豊富な木材を生み出す森林に魅了されています。



木で作ったおもちゃ

check 活動ポイント

グループは、「人のところと命を育む森林と健康な体の関わり」をテーマに、製材所にも協力をいただいで活動しています。製作した作品を校内でプレゼンテーションし、他のグループからの意見も取り入れ改善し、1月ごろ地域の方へ提供する予定です。作品をプレゼントされた地域の人々と生徒が、地元で育てられた木材から製作された作品を通して喜びを共有することは、持続可能な社会づくりの地域の財産になると思います。

(取材 柳楽(出雲市) 2023年11月)



3名のグループ

活動団体 DATA

活動団体名：島根県立飯南高等学校

住所：島根県飯石郡飯南町野萱 800 0854-76-2333

URL：<https://iinan.ed.jp/>

事例

NO. 11

隠岐の島が一つの地球

島根県立隠岐水産高校 海洋クラブ



釣り班の成果

活動内容

釣りが何より大好きな太公望たちの集まる海洋クラブは、通称「第三グラウンド」と呼ばれる校舎脇に広がる西郷湾が活動の場です。クラブでは海や川での資源調査や生物飼育をはじめ、海洋調査でとれた食材を本科の授業だけでは飽き足らず、自分たちで食品加工をするなど様々な活動にチャレンジしています。また、全国水産・海洋系高校が参加する「フィッシング技能コンテスト」の出場にあたっては、地元の小学生と一緒に海岸清掃やゴミ調査、処分も行いました。活動で釣った魚は自分たちで刺身にし、魚介鍋に入れる野菜などの食材も校庭の一角で自給自足を始めています。



海岸を清掃しています

隠岐の島という島一つで循環する地域で、大自然の恵みに感謝しながら、クラブ活動を満喫し、地域のことや自分たちの将来をしっかりと見据えている生徒たちでした。

check
活動ポイント

生徒たちは、魚種が近年変化しているとの漁師さんの話にも敏感です。ユネスコ世界ジオパークに登録されている自然豊かな隠岐の島で、「地域の人に支えられながら、この地域だけで生産から消費、廃棄まで循環



畑班の活動

できる持続可能な社会を目指している」と話をしてくれた県外出身の生徒さん。「隠岐の島を一つの地球」と考え、無理なく・楽しく活動をしたいという話に感動を覚えました。(取材 石原(松江市))

活動団体 DATA

活動団体名: 島根県立隠岐水産高校

住所: 島根県隠岐郡隠岐の島町東郷吉津 2 08512-2-1526

URL: <https://www.oki-sui.ed.jp>

SDGs 解説



あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る



すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する



すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する



強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る



国内および国家間の格差を是正する



都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする



持続可能な消費と生産のパターンを確保する



気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る



持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

SDGs とは？

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。持続可能な社会をつくるために、世界が抱える問題を 17 の目標と 169 のターゲットに整理したもの（2015 年 9 月に国連で採択）。2030 年までに、政府、企業、地域社会のあらゆる人が、SDGs を実現するための役割を担っている。

参考 “持続可能な開発目標” 国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所・ホームページ

島根県地球温暖化防止活動推進員 とは

島根県地球温暖化防止活動推進員は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第37条の規定に基づき、島根県知事が委嘱をした方です。推進員は、自ら率先して日常生活における地球温暖化防止対策を実践するとともに、地域における温暖化対策を推進するリーダーとして、県、市町村、島根県地球温暖化防止活動推進センターなどと連携し、地球温暖化防止の重要性を県民に伝え、温暖化防止につながるきめ細やかな対策の普及・啓発につとめることで、県民の中に地球温暖化防止の意識や取組を浸透させる役割を担います。

(地球温暖化防止活動推進員の活動例)

- (1) 地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性について県民の理解を深めること。
- (2) 県民に対し、その求めに応じ日常生活に関する温室効果ガスの排出の抑制等のための措置について調査を行い、当該調査に基づく指導及び助言をすること。
- (3) 地球温暖化対策の推進を図るための活動を行う県民に対し、当該活動に関する情報の提供その他の協力をすること。
- (4) 温室効果ガスの排出の抑制等のために国又は関係機関が行う施策に必要な協力をすること。



記者紹介

「しまね脱炭素チャレンジ集
～学生編5～」作成のため
ご協力いただきありがとう
ございました

五十音順／敬称略

安部 利昭
石原 孝子
江木 真生
大橋 美津子
岡田 かおる
小川 律子
高橋 充男
永江 由美子
柳樂 利子
藤井 幸子
渡辺 紀美枝

しまね脱炭素チャレンジ集

～学生編 5～

発行日 令和6年1月

発行先 しまねエコライフサポートセンター
島根県地球温暖化防止活動推進センター
公益財団法人しまね自然と環境財団松江事務所
〒690-0887 島根県松江市殿町 8-3
島根県市町村振興センター(タウンプラザ[®]しまね)2階
TEL 0852-67-3262 <https://nature-sanbe.jp/eco/>

二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(地域における地球温暖化防止活動促進事業)

